

泉市長が突然の辞職、3月17日に選挙繰り上げ

暴言問題で全国注視、選挙の構図先行き不透明

「この春明石が面白い」と4月の市長・市議ダブル選挙に注目しようと1月20日に本紙が呼びかけた直後に、とんでもない展開になりました。1月29日に始まった「泉市長の暴言問題」報道は同日の謝罪会見から3日後の2月1日に辞表提出、翌2日に市議会が辞職をスピード可決するという1週間足らずの嵐のような展開になりました。

この間、マスコミは連日のように全国トップで報道が続き、明石は全国から注目されることになりました。2001年の大蔵海岸花火大会事件以来の不名誉な注目です。市長が任期途中で辞職したり、不祥事で3選出馬を断念するのは、花火大会事件の岡田市長以来3代連続になります。

明石市選挙管理委員会は6日、繰り上げ市長選を3月10日告示、17日投・開票の日程で行うことを決定しました。辞職した泉氏は、暴言問題が報道された直後の謝罪会見では4月の選挙に出馬するとしていましたが、辞職会見では出直し選への対応については明言を避けたまま沈黙しています。

市長選挙公開討論会は3月2日(土)に繰り上げ開催

市民自治あかしは4月市長選を前提に3月24日に市長選挙立候補予定者による「公開討論会」を開催することにしていたが、選挙が繰り上がったのに合わせて3月2日(土)午後2時から市民会館中ホールで開催することを決めました。

今のところ出馬の意向を示している北口寛人県議(元市長、2003/5~2011/4の2期)は「誠意を持って対応する」と出席を約束しています。泉氏を含めて他の出馬意向を表明する候補予定者が現れたら、随時出席を要請します。

公開討論会へ向けて第3次「市民マニフェスト」討論集会を開催

18日(月) 勤労福祉会館 20日(水) 大久保市民センター (各13:30~16:30)

市民自治あかしは過去2回の市長選挙(2011年、2015年)に際して「市民がつくる市民の政策」として、市民が望むまちづくりや市政運営などを「市民マニフェスト」にまとめ、立候補予定者を招いた公開討論会で提案し、意見交換してきました。

今回も3回目に当たる「市民マニフェスト」案をまとめて、市内2カ所で開催する「討論集会」で多くの市民の声を反映して修正加筆をおこなったうえで最終案をまとめます。原案は市民自治あかしのHPでも公開し、討論集会への参加を呼び掛けるとともに、メール等による意見も募ります。討論集会にはどなたでも参加できます。多数のご参加を期待します。

泉市政のマニフェスト検証大会は、泉氏欠席で「緊急市民集会」開催

2月3日に予定していた「泉市政の市民マニフェスト検証大会」は、泉市長の辞職によって本人欠席が前日に確定したため、急きょ「緊急市民集会」に切り替えて開催しました。会場の勤労福祉会館ホールには75名が参加。予定していた泉市政4年間の評価検証結果を発表し、連続3代にわたる市長の辞職や再出馬断念が生じた構造的な問題点などについて議論が交わされました。

市民に向き合う市政へ 今こそ取り組もう

緊急市民集会

スキャンダルで終わらせるな！

突然の市長辞任で「泉市政に対するマニフェスト検証大会」を急ぎ、「緊急市民集会」に切り替えて開かれた2月3日の勤労福祉会館多目的ホールは、75名の市民が参加し、テレビカメラも入る中で緊張と戸惑いの入り混じる発言が次々に飛び出しました。

集会では冒頭、泉市長の暴言問題と辞任の経過、マニフェスト検証大会への泉氏の欠席通知が辞任翌日に届いたことなどを報告。昨年6月から半年をかけて泉市政の検証作業を行ったうえでまとめた「泉市政の評価検証結果」も報告しました。

（評価検証結果は市民自治あかしのHPに掲載しています）



泉市政 評価の“落差”に驚く声

会場からは「各地で評価されていた泉市政と評価検証結果の落差に驚いた」「外部からは評価の高かった施策が多く、少しは市民の立場に立った市長かと思っていたが、自治基本条例に掲げた“市民参画”が進んでいないのは残念だ」「子育て支援は、保育費無償化や施設拡大のことばかりが強調され、国政の先取りや追随が目立ち、保育の質的な充実が後回しになっていないか」「検証結果に示されている通り、説明責任を果たすことがないがしろにされてきたことは大きな課題だ」など、政策や市政運営の姿勢についての発言が相次ぎました。

また、暴言問題や辞任、今後の選挙についても「報道された暴言問題は許されることではないが、すぐに事実を認めて全面的に謝罪したのは昨今の政治家としては珍しく潔い」「出直し出馬すれば2度も市長選が行われたり、今後統一選から離れて3、4月で3回も選挙をすることになる。なぜ4月の選挙を待てなかったのか」「選挙へ向けて市長擁護派と非擁護派に市民が分断されるのは避けるべきだ」「今回の問題を、スキャンダルで終わらせてはならない」など、市民のあり方に言及する意見も多く出されました。

“究極の選択” 迫られる市民

市長選挙の構図がどうなるかが分からないことにも、戸惑いが出されました。

「2代続いた前市長と元市長の対決になると、いずれも不祥事で退いた候補者から選ぶことになり、悩ましい。市民は究極の選択を迫られかねない。どちらが“よりましたか”の基準で選ぶしかないかも…」

参加した市民の多くからアンケートで「今後もこうした討論集会を開いて、市民の思いを率直に出し合える場が欲しい」という声も寄せられました。

